

令和7年7月9日 地震調査研究推進本部 地震調査委員会
-----------------------------------

## トカラ列島近海の地震活動の評価（案）

- トカラ列島の悪石島（あくせきじま）から宝島にかけての領域では、6月21日から地震活動が活発になり、大局的には東側と西側の領域に分かれている。

東側の領域では、6月21日から地震活動が活発になり、6月26日頃に一度低下したものの、再度活発化した。7月3日16時13分にはマグニチュード(M) 5.5の地震が発生し、悪石島で最大震度6弱を観測した。この地震の発震機構は北北西—南南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。この領域の地震活動は現在も活発な状態が継続している。

西側の領域では、7月2日頃から地震活動が活発になり、7月2日15時26分に今回の一連の活動のうち最大規模の地震(M5.6)が発生し、小宝島で最大震度5弱を観測した。この地震の発震機構は北北東—南南西方向に張力軸を持つ正断層型である。この領域の地震活動は現在低調である。

今回の一連の地震は陸のプレート内で発生している。
- 震度1以上を観測した地震は6月21日から7月●日●時まで●回発生し、このうち、震度5弱以上を観測する地震が●回、震度3以上を観測する地震が●回発生した。
- GNS S観測の結果によると、今回の一連の地震活動に伴い、地殻変動が観測され、その水平変動の方向は最大規模の地震（7月2日のM5.6）の発生直前に変化した。小宝島で観測された水平変動の向きは北東方向から北北西方向に、宝島観測点で観測された水平変動の向きは東北東方向（約2cm）から南方向（約4cm）に変化した。なお、悪石島で観測された水平変動の向きは南西方向から変化していない。7月3日以降は顕著な地殻変動はみられていない。
- 今回の地震活動域の周辺は、過去にも活発な地震活動が継続したことがある地域であり、1995年12月、2000年10月、2021年12月に、それぞれ最大でM5.5、M5.9、M6.1の地震を伴う活動が観測されている。これらの地震活動では、活発な期間と落ち着いた期間を繰り返しながら、数か月程度以上継続したこともあった。今回の一連の地震活動は、1995年以降に発生した地震活動の中で、最も地震回数が多い。
- 悪石島から宝島にかけての領域は火山列の延長上に位置しており、このような火山地域の過去の地震活動の例では、一連の活動の中で、最大規模の地震と同程度の規模の地震が、続いて発生しやすい特徴がある。当分の間、同程度（震度6弱）の地震に注意が必要である。

注：GNSSとは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。